

特集 —

新版教科書を 生かして使う

新しい学年のスタートです。
新学期号の特集には、4月からお使いいただく
新版教科書を取り上げました。



新版教科書の

ここに注目してください

光村図書出版国語編集部

I 編集の基本方針

新しい国語教科書を、開いていただけましたか。これまでと違って大きな判型になったこと、本編の後ろに「学習を広げる」という資料が付いたことなど、手にとっただけで、「新しくなったな」と気づかれる点も多くあるでしょう。

二十一世紀に生きる生徒たちが、国語に興味と関心を持ち、自ら見通しをもって学習に取り組むことができるよう、新しい教科書は、特に次の点に留意して編集しました。

1 言葉の力をはぐくむ教科書

国語科の学習を通して、生徒自身が自分の中に言葉を蓄え、また蓄えられた言葉を駆使して、自らの体験や必要な情報を正確に理解する能力を育成することを旨としました。

2 生きる力を見据えた教科書

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの、また相互の学習の中で、国語に対する認識が深まり、豊かな表現力・思考力・想像力・言語感覚が身につき、それらの力が生活の中でも生きて働くように配慮しました。

3 基礎・基本が身につく教科書

言葉の力を実感し、自覚化できるような教材・学習活動・課題・資料を用意することで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の基礎・基本が、生徒の必要性に基づいて身につくように工夫しました。

4 「伝え合う」力を高める教科書

生徒一人一人が感じたこと、考えたことを自分の言葉で積極的に表現し、「伝え合う」ことを通して自分の考えを深めたり、自他の違いを認識したりしながら、協同して学習することの意義を得られるように配慮しました。

5 生徒が自らの力で取り組む教科書

生徒が、自らの課題を発見し、自ら考え、自ら解決できるように、それぞれの教材の学習目標・学習活動の流れをわかりやすく示しました。また、学習の中で身につけた力を生徒自身が確認できるように工夫しました。

6 生徒の個性が生きる教科書

多様な教材を用意し、生徒一人一人が個性を生かして学習に臨んでいくことで、自然に心の豊かさや言葉の豊かさについて考え、気づき、学習することの喜びや達成感を得られるように工夫しました。

●3年生を例に

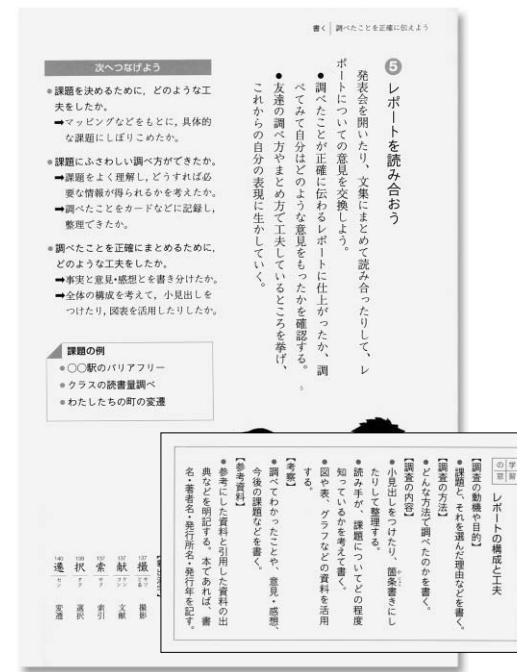
後 期			前 期		
2学期			1学期		
3学期			2学期制 3学期制 単元・教材		
文法①② 漢字に親しもう 学習を広げる	6 人間と言葉	話す・聞く 未来に向かって 話す・聞く ＋書く	1 心の在り方	読む わたしを束ねないで 握手	2 社会をとらえる
		読む アラスカとの出会い		読む メディア社会を生きる	
		読む 温かいスープ		読む 文法の広場① 助詞と助動詞 漢字② 異なる意味をもつ漢字 考える	
		読む 奈々子に			
		読む 「はじめに……」について			
		言語 漢字⑥ 漢字の総まとめ			
5 論理の展開	本の世界を広げよう 読書案内・読書活動	炎を見ろ——赤き城の伝説 読書案内・読書活動	話す・聞く 相手を意識して伝えよう	読む 握手	2 社会をとらえる
		読む 生き物として生きる		読む メディア社会を生きる	
		書く 説得力のある文章を書こう		読む 文法の広場① 助詞と助動詞 漢字② 異なる意味をもつ漢字 考える	
		言語 文法の広場② コミュニケーション 漢字⑤ 反対の意味の熟語・ 似た意味の熟語			
4 古典を楽しむ	首読を 楽しもう	古今和歌集 仮名序	話す・聞く 話し合って考えを深めよう	読む わたしを束ねないで 握手	2 社会をとらえる
		古典 君侍つと——万葉 古今・新古今——		読む メディア社会を生きる	
		古典 夏草——「おくのほそ道」から——		読む 文法の広場① 助詞と助動詞 漢字② 異なる意味をもつ漢字 考える	
		古典 学びて時にこれを習ふ——「論語」から——			
		言語 漢字④ 身の回りの漢字			
3 状況に生きる	読む 挨拶——原爆の写真によせて 故郷	言語② 比喩と慣用句 漢字③ 熟語の読み方 重箱読み・湯桶読み	話す・聞く 相手を意識して伝えよう	読む わたしを束ねないで 握手	2 社会をとらえる
				読む メディア社会を生きる	
				読む 文法の広場① 助詞と助動詞 漢字② 異なる意味をもつ漢字 考える	



▲ 本の世界を広げよう



▲ 学習



▲ 次へつなげよう

▲ 学習の窓



▲ 目標 ▲ 学習の見通しをもとう

幅広い分野から、魅力あふれる作品・文章を厳選しました。同時に、学習を焦点化し、「読むこと」の力を確実に定着させる課題を用意しました。

1 学習

教材にある「学習」のページには、「目標」「新出漢字」と教材の特性に合わせて、「言葉」「学習の窓」を置きました。「目標」は、教材の内容的価値をとらえる目標と、内容的確に読み解くための目標との、二種類に分けて示しました。「学習の窓」は、他の領域と同様、「読むこと」の力を系統的に身につけるために位置づけました。

2 古典

音読や暗唱のきっかけとなるよう、作品の冒頭部分を提出し、一・二年教材の本文には、歴史的仮名遣いに読みのための振り仮名をつけました。また、生徒にとって、古典学習がより楽しく有意義なものとなるよう、視覚的效果を考えて紙面を構成しました。

3 本の世界を広げよう

読書教材として、夏休み前には文学を、冬休み前には説明文を位置づけました。教材の内容と関連する「読書案内」のほかに、読書の記録を残したり、必要な情報を手に入れたりするための「読書活動」を位置づけました。より多くの本に親しめるよう、巻末「本との出会い」では、三学年共通で百冊の本を紹介しています。

IV 読むこと

題名と副題で、活動内容と形式をはっきり示すと同時に、そこでのねらいと、具体的な活動の流れが一目でわかるよう、教材紙面を工夫しました。

1 目標・学習の見通しをもとう

教材の最初のページに、「目標」と「学習の見通しをもとう」を置きました。「目標」は、そこで何を学ぶのかを生徒に見える形で示したものです。「学習の見通しをもとう」は、そこでの学習の流れを四つのステップに沿って示したものです。これらは、すべての「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に共通するステップとして提示しています。

2 学習の窓

何に注意して伝え合うか、どのような手順で活動に取り組むかなど、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習のポイントを具体的に示したのが、「学習の窓」です。巻末の「学習を広げる」には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「学習の窓」を一覧にまとめた「伝え合うために」を設けました。

3 次へつなげよう

教材末の「次へつなげよう」に、そこでの学習の振り返りとして、自己評価の観点を示しました。活動したまま終わるのではなく、何ができたか、次はどこを工夫するかなど、成果や課題を確認することで次の学習や日常の言語生活に生かしていくことをねらっています。

III 話すこと・聞くこと／書くこと

題名と副題で、活動内容と形式をはっきり示すと同時に、そこでのねらいと、具体的な活動の流れが一目でわかるよう、教材紙面を工夫しました。

V 言葉

普段、何気なく使っている言葉の奥深さを知り、興味をもてるように、教材化を図りました。事例についても、日常の場面を想定した、身近なものを挙げました。

1 文法

新しい教科書では、教材の提示方法を一新しました。一・二年は三箇所、三年は二箇所に、「文法の広場」を配置し、本編の最後に具体的な解説である「文法」を一括して示しました。「文法の広場」は生徒が言葉のきまりに気づききっかけとして、また、「文法」は実際の学習の場として、それぞれの役割をはっきりと分けました。

2 言語

各学年二箇所に、「言語」を位置づけ、中学生に必要な言葉の知識を精選して示しました。身近な言葉や表現に着目するきっかけをそれぞれの教材の導入部分に置き、わかりやすく解説すると同時に理解を助ける資料やイラストを豊富に取り入れました。

3 漢字

新出漢字は、「読むこと」の教材と「漢字」を中心に提出し、本来の学習の目的を妨げないように、「話すこと・聞くこと」や「文法」教材などには、提出していません。また、「小学校六年生で学習した漢字」「常用漢字表・常用漢字表 付表」を、全学年の付録に入れました。小学校六年生の漢字を書く場として、全学年の本編に「漢字に親しもう」を設けました。

VII そのほかの工夫点

中学校の三年間に、できるだけたくさんさんの言葉と出会ってほしい。自ら学ぼうとする気持ちを応援したい。そんな思いから、生徒をサポートするいくつかもの工夫や機能を盛り込みました。

1 単元とびら

各単元のとびらに「言葉を楽しむ」を設けました。「花便り・麦秋・花野・紅葉」など、身近な自然や生活に息づく美しい言葉の存在に気づき、興味をもつきっかけになってほしいと願いました。

2 各種マーク

教材に関連のあるページをマークで示し、適宜参照できるようにしました。本編のほかの教材や、「学習を広げる」につながっています。このほかにも、学習を支えるものとして、さまざまなマークが登場します。

3 学習の計画を立てよう

各学年の目次の後ろに、一年間の学習活動を一覧にしました。生徒自身が見通しをもち、主体的に学習できるように配慮しました。学習内容、目標のほか、「学習の窓」、「学習を広げる」との関連も示しています。

4 伝え合うために

「話す・聞く」「書く」領域の「学習の窓」と「学習を広げる」の項目を、活動の展開に沿って示しました。一年間の学習項目を見通し、自己評価する場としても活用できます。

VI 学習を広げる

本編の学習を支える学習ツールとしての資料を巻末にまとめました。国語だけでなく、「総合的な学習の時間」や日常の言語生活にも生かされます。

1 資料

本編の学習を支える資料として、教材内にマークで関連を示しました。資料として位置づけたものには、配当数や新出漢字がなく、いつでも活用することができます。生徒の主体的な活動を助ける資料として、話し合いの方法やメモの取り方、辞書の活用方法などを示しました。「読むこと」の資料として位置づけた作品・文章は、本編の教材と入れ替えて扱うこともできます。

2 発展

学習指導要領の一部改正（平成十五年十二月）により、新しく取り入れられた「発展的な学習内容」に当たるものです。すべての生徒が一律に学習する必要はありませんが、自主学習などに使えるよう、新しい教科書では「日本文学の流れ」と「近・現代文学展望」、「文語の活用」の三項目を示しました。

3 付録

それぞれの学年で学習した漢字の一覧と「常用漢字表・常用漢字表 付表」「小学校六年生で学習した漢字」のほかに、「学習のための用語一覧」を置き、その学年で登場した主な用語を五十音順にまとめました。



言葉を楽しむ ① 花便り はなだより 春に使われる言葉。桜など、花のさいたありさまを知らせる便りのことをいう。「花便（かしん）」ともいう。

▲ 単元とびら「言葉を楽しむ」

◀ 学習を支えるマーク



教材に関連のあるページを示している



話す・聞く活動



書く活動



学習
読む活動のてびき



学習の窓
学習で身につけたい力。
話す・聞く／書く教材と
「学習」に示している。



音声教材
学習指導書の付属CDなど
を使用する学習